

報告

第 46 回日韓技術士国際会議に参加して

永 田 泰 浩

1. はじめに

2016 年 10 月 2 日から 4 日に、栃木県日光市において第 46 回日韓技術士国際会議が開催されました。日光市は海外でも有名な日光東照宮や中禅寺湖などの観光資源があり、さらに会場が鬼怒川温泉ということもあって、日韓ともに期待高まる会議となりました。北海道からは、永田泰浩が参加しましたので、ここに参加報告をさせていただきます。



写真-1 温泉街を流れる鬼怒川の様子



写真-2 本会議の様子

また、今回は、「平和の使節・朝鮮通信使と日光～日韓文交流の足跡」と題した、栃木県日光親善協会の青木会長からの記念講演もありました。開催地日光の歴史的な位置づけも絡めた発表で、興味深く聞くことができました。なお、江戸時代の平和外交使節団である「朝鮮通信使」の記録については、日韓共同でユネスコの「記憶遺産」に申請することが本格化しているとのこと、今後ますます、日韓の交流が盛んになることが期待される発表となりました。

2. 本会議

第 46 回の日韓技術士国際会議は「伝統的技術と最新技術の融合と発展」というテーマに沿って、進められました。3 日に行われた本会議の基調講演では、はじめに「TOKYO SKYTREE 世界一の高さへの挑戦～伝統の技と現代技術の融合～」と題して、スカイツリー建設時の先端技術について、日本側の技術士から発表がありました。韓国側からは、歴史的遺産である水原華城を含む水原市の都市空間の整備、発展についての発表がありました。水原市では、2013 年に日韓技術士国際会議が開催されており、同会議の参加者には、理解しやすい発表でありました。

3. 分科会

3 日の午後の分科会は、国土・環境・エネルギー・食品についての第一分科会、建設・安全・防災・危機管理についての第二分科会、技術者倫理・資格・教育・新技術・新工法の第三分科会、電気・電子・情報・通信・機械の第四分科会、英語発表の第五分科会と、5 つの分野に別れて開催されました。

数年前に英語発表の分科会に参加したときに比べると、第五分科会の参加者も増加しており、共通の言語としての英語を通じて、日韓の交流が深まっている状況を実感することができました。

4. 日韓技術士親善サッカー大会

本会議や分科会の前日、10月2日には、宇都宮市の河内総合運動公園において、日韓技術士親善サッカー大会が開催されました。昨年は、アウェイでの苦しい戦いに1-2で敗れた日本代表チーム。今年はホームで韓国代表チームを迎え撃つ形となりました。日本代表チームは、試合前に、このサッカー大会に向けて集まってくれたボランティアの高校生(皆さんもちろんサッカー部)との練習試合を敢行。ひたすら守備、ボロボロにやられたものの、十分すぎるアップをして試合に臨みました。

前半から既にエンジンがかかり、一部ガス欠気味の日本代表チームが、韓国ゴールに迫ります。しかし、社会人クラブチームとして活動している韓国代表チームの堅い守備もあり、なかなか均衡が崩れません。そんな中、日本代表チームは、前半の終盤に北陸代表の江川選手のゴールで先制。後半も、山中選手、古川選手のゴールが続き、終わってみれば3-0で勝利を収めました。3点をもぎ取った攻撃陣もさることながら、高校生との練習試合で、ひたすら守備練習だった日本代表チームは、守備が非常に安定しており、危なげない内容で試合を終えました。

永田も試合開始から先発出場をさせていただき、後半の終盤に足がつって交替するまで、犬のようにボールを追わせていただきました。長い歴史のある日韓技術士親善サッカー大会の中でも、ここまで日本代表チームが完勝したことはなかったと思います。試合終了後に皆が口をそろえて言った言葉は、勝利の喜びではなく、「来年が怖い…」でした(笑)



写真-3 試合直前、闘志みなぎる技術士ジャパン

5. 晩餐会

本会議や分科会の行われた10月3日の夜には、盛大な晩餐会が開催されました。晩餐会では、すっかり親しくなったサッカー韓国代表チームと日本代表チームの顔ぶれがお互いに肩を組み、飲み歩く姿があちこちで見られました。

晩餐会の終了後には、日韓サッカー両チームのメンバーで2次会へ。古き良き時代の香りが残る温泉街のディープなカラオケ居酒屋で、さらに両チームの親睦を深めました。後半は歌いながら踊り狂う両チームのメンバー、、、みんな汗だくになって2日目が終わりました。



写真-4 晩餐会での日韓サッカー両チームのメンバー

6. おわりに

会議の終了後、日本で唯一、特別史跡と特別天然記念物の二重指定を受けている日光杉並木街道を歩いてきました。一年前の日韓技術士国際会議で訪れた、南怡島のメタセコイヤ並木道も非常に美しかったのですが、こちらの杉並木もまた格別でした。針葉樹の並木を見るとほっとする文化。やはり日本と韓国の文化の根っこは、同じようなところにあるのかもしれないなあ〜と勝手に納得して、今回の会議を終えました。

永田 泰 浩(ながた やすひろ)
技術士(建設/総合技術監理部門)
一般社団法人北海道開発技術センター

